

研修・実習信息

—怎样做才能在工作中防止受伤—

我想诸位研修生・技能实习生，每天都在努力地学习技术・技能・知识。然而，如果研修中和技能实习中发生受伤的话，就不能充分达到来日本的目的了。

为此，我们就在很多日本公司被实践的 4S・KYT・风险评估，向诸位进行说明。在日本，通过采取这些安全管理手段，大幅度减少了由于工作而受伤的人。同时，这些手段每个人都能够实践，我们衷心地希望诸位也能加以实践，健康地回国。

研修・実習情報

—どうすれば作業中のケガを防止できるか—

研修生・技能実習生の皆さんは、毎日、技術・技能・知識の修得に励まれていることと思います。しかしながら、研修中や技能実習中に負傷するようなことがあっては、来日された目的を十分に達成することができません。

そこで、日本の多くの会社で実践されている 4S・KYT・リスクアセスメントについて説明します。日本では、これらの安全管理手法を採用することによって、業務によって負傷する人を大幅に削減させてきました。また、これらの手法は個人レベルでも実践できるところから、皆さんも実践し、元気に帰国されることを心から願っています。

1 关于4S

日本所说的4S是指，是取「整理(seiri)・整顿(seiton)・清洁(seiketu)・清扫(seiso)」的第一个大写字母的省略语，进行整理使得身边整洁、具有有效率的工作环境。也有加上「教养(shituke)」和「安全(safety)」而称为5S、6S的说法。

确实，在没有进行整理・整顿的工作岗位，事实上灾害也多、工作效率也低。从而，甚至有人说「所谓的4S，是安全管理的基本」，所以，不管是什么样的工作岗位，都把4S作为现场管理的基本。诸位平常也有必要致力于4S，安全进行工作。(在宿舍内也同样。)

2 关于KYT

在日本所说的KYT，是取了「危险(kiken)・预知(yochi)・训练(training)」的第一个大写字母的省略语，也称作KYK(危险预知训练)。其目的是预知危险、意在领先一步实施安全卫生。现在，在全国各地的各个工种都被采用，此措施对灾害的防止发挥着很大的作用。KYT往往在工作岗位的早会和TBM(toolboxmeeting)时进行，一个人进行的话则被称为「一人KY」。

在这里，我们就一个人也可以进行的「一人KY」进行说明。首先，在进入工作之前，①把握有什么样的危险，②具体地考虑对于此危险应如何应对才好，③按照此想法实施，④让这样的想法适用所有的工作。(不仅在工作中，在哪里都是防止受伤的基本。)

3 关于风险评估

这是让KYT、KYK发展，把通过危险预知找到的危险，按序排位・实施评价，决定灾害防止对策的优先程度、切实・有效地采取灾害防止对策的手法，是最新的灾害防止手法。

具体的、对各自的危险是以何种频度・概率导致伤害(频度低1→高3)、伤害・受伤是何种程度(轻伤1→死亡3)进行推测，两者相乘来决定风险的程度，决定对策的优先程度。

1 4Sについて

日本でいう4Sとは、「整理(セイリ)・整顿(セイトン)・清潔(セイケツ)・清掃(セイソウ)」の頭文字をとった略語で、身の回りをすっきりさせ効率的な作業環境に整えることです。さらに「躾(シツケ)」とか「安全(セーフティ)」まで入れて5S、6Sとか言ったりする場合があります。

確かに、整理・整顿が行われていない職場では、災害も多く作業能率も悪いことは事実です。このようなことから、「4Sとは、安全管理の基本である」と言う人さえいて、どのような職場でも4Sを現場管理の基本としています。皆さんも日常的に4Sに努め安全に作業を行う必要があります。(宿舍内でも同様です。)

2 KYTについて

日本でいうKYTとは、「危険(キケン)・予知(ヨチ)・訓練(トレーニング)」の頭文字をとった略語で、KYK(危険予知訓練)とも言います。その目的は危険を予知して安全衛生を先取りしようというものです。現在、全国各地で、さまざまな業種で採用されており、この手法は災害防止に大変役立っております。KYTは職場の朝礼やTBM(ツールボックスミーティング)の際に行われることが多く、一人で行うものは「一人KY」と呼ばれています。

ここでは、一人でもできる「一人KY」について説明します。まず、作業に入る前に、①どのような危険があるかを把握し、②その危険にどのように対処したらよいかを具体的に考え、③その考えに基づいて実行することで、④このような考え方をすべての作業に適用させていきます。(作業中に限らず、どこでも、ケガ防止の基本です。)

3 リスクアセスメントについて

KYT、KYKを発展させ、危険予知で洗い出した危険に順位・評価を行い、災害防止対策の優先度を決めて効率的・効果的に災害防止対策を講ずる手法で、最新の災害防止手法です。

具体的には、それぞれの危険が、どの程度の頻度・確率で傷害に至るか(頻度低1→高3)、傷害・ケガはどの程度か(軽傷1→死亡3)を推測し、両者を掛け合わせてリスクの程度を決め、対策の優先度を定めるものです。